

病院機能評価（付加機能）
リハビリテーション機能（回復期） 評価項目
公益財団法人 日本医療機能評価機構

- 「リハビリテーション機能（回復期） 評価項目」（付加機能評価）には、全ての評価項目および下位項目が含まれています。
- 自己評価の直接の対象項目は中項目レベルのものです。中項目は項目番号が例えば「Rh.3.4」のように 3 ケタで表記されています。中項目の下に小項目（項目番号が 4 ケタ）がありますが、それらの回答を勘案して総合的に中項目を評価してください。
- 小項目は 3 段階で判定します。また、小項目の下に列挙した下位項目（①②③…）は、小項目の評点を判断するうえで確認すべき事項です。小項目は、下位項目を参考にして、概ね次のような判定結果を表します。
 - a: 適切に行われている／適切な形で存在する／積極的に行われている
 - b: 中間
 - c: 適切さに欠ける／存在しない／行われていない
- 中項目は 5 段階で評価します。それらはおおむね次のような評点結果を表します。
 - 5: 極めて適切に行われている／極めて適切な形で存在する／極めて積極的に行われている／他の施設の模範になると自負できる
 - 4: 適切に行われている／適切な形で存在する／積極的に行われている
 - 3: 中間
 - 2: 適切さにやや欠ける／存在するが適切さに欠ける／消極的にしか行われていない
 - 1: 適切でない／存在しない／行われていない
- 各項目で求めている事項が、貴院の役割や機能から考えた場合に必要ない（当該事項が行われていなくても妥当である）と考えられる場合には、“NA（非該当）”を選んでください（NA = Not Applicable）。

この調査票の記入上でさらにご不明な点は、下記までお問い合わせ下さい。

—記—

公益財団法人 日本医療機能評価機構

TEL : 03-5217-2321

FAX : 03-5217-2328

Rh リハビリテーション機能（回復期）

Rh. 1 リハビリテーションに関する理念・基本方針と地域における役割

Rh. 1.1 リハビリテーションに関する理念・基本方針が明確に定められ職員に周知されている
--

Rh. 1.1.1 リハビリテーションに関する理念・基本方針が明文化されている

- ①リハビリテーションに関する理念が明文化されている
- ②回復期リハビリテーションに関する基本方針が明文化されている
- ③理念・基本方針の内容を検討し、必要に応じて見直している

Rh. 1.1.2 リハビリテーションに関する理念・基本方針が職員に周知されている

- ①訓練室や病棟など、職員や利用者の目に付きやすい場所に掲示している
- ②部門や病棟での職員研修の内容に、理念・基本方針の理解を深めるプログラムを含んでいる

Rh. 1.2 回復期リハビリテーション病棟の機能と地域における役割が定められ、他の医療施設等と適切に連携している

Rh. 1.2.1 回復期リハビリテーション病棟の機能と地域における役割が明確になっている

- ①地域の医療機関等におけるリハビリテーションのニーズに関する情報を収集・把握している
- ②地域における自院の役割・機能を定めている

Rh. 1.2.2 地域の他の医療機関等から回復期リハビリテーション病棟に患者を受け入れるための仕組みがある

- ①他の医療機関等からリハビリテーションが必要な患者を受け入れるための方針を定めている
- ②受け入れに関して多職種で検討する仕組みがある
- ③受け入れられない場合にはその理由とともに紹介元に迅速に伝える仕組みがある

Rh. 1.2.3 地域の他の医療機関等と連携し、退院後も継続してリハビリテーションが実施されるよう配慮している

- ①自院の回復期リハビリテーション病棟からの退院時に地域の医療機関や福祉施設などと連携している
- ②外部の連携会議や地域連絡協議会などに参画している

Rh. 1.3 地域に対してリハビリテーションの教育・啓発活動に取り組んでいる

Rh. 1.3.1 地域の保健・医療・福祉施設等の職員を対象にしたリハビリテーションに関する教育・研修を行っている

- ①地域の保健・医療・福祉施設等の職員を対象にした教育・研修を行っている
- ②地域の保健・医療・福祉施設等の職員に対して、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などによる技術指導・支援を行っている

Rh. 1.3.2 地域住民等を対象にしたリハビリテーションに関する教育・啓発活動を行っている

- ①地域住民を対象にリハビリテーションに関する教育・啓発活動を行っている
- ②地域住民などを対象にしたリハビリテーションに関する広報活動を行っている

Rh. 2 回復期リハビリテーションの提供体制の確立

Rh. 2.1 リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している

Rh. 2.1.1 リハビリテーション提供のための組織図があり管理責任者が明確になっている

- ①リハビリテーション部門や回復期リハビリテーション病棟を含む組織図を実態に即した内容で作成している
- ②リハビリテーション部門と回復期リハビリテーション病棟の管理責任者が明確になっている
- ③リハビリテーション部門と回復期リハビリテーション病棟の円滑な関係に基づき病棟運営を行っている

Rh. 2.1.2 リハビリテーション科の診療体制が整備されている

- ①リハビリテーション科の診療の責任体制が明確である
- ②リハビリテーションを専門とする常勤の医師を配置している

Rh. 2.1.3 回復期リハビリテーション病棟に必要な人員を配置している

- ①病院機能・業務量に見合ったリハビリテーションに関する知識・経験を有する専任の医師を配置している
- ②病院機能・業務量に見合った回復期リハビリテーションに関する知識・経験を有する看護師・介護職員を配置している
- ③病院機能・業務量に見合った理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などを配置している
- ④相談ニーズに見合ったMSWを配置している
- ⑤その他、必要に応じた専門職を配置している

Rh. 2.1.4 患者の生活時間に適応したリハビリテーションを実施するために組織的に対応している

- ①患者の生活時間に適した勤務体制が確立している
- ②365日リハビリテーションの実施に向けた体制が整備されている

Rh. 2.1.5 リハビリテーションに必要な補装具を提供するための仕組みがある

- ①患者に必要な義肢装具の必要性を迅速に評価し、提供することができる
- ②患者に必要な介護用品の必要性を評価し、提供することができる
- ③装具の修理調整を行う仕組みがある

Rh. 2.2 リハビリテーションを実施するための施設・設備が整備されている

Rh. 2.2.1 リハビリテーション科の診療に必要な施設・設備や機器が整備されている

- ①必要な診察室や処置室などが確保されている
- ②診療に必要な機器などが整備されている
- ③診察室・処置室は患者のプライバシーに配慮している

Rh. 2.2.2 リハビリテーションを実施する場所に必要な施設・設備が整備されている

- ①理学療法に必要な施設・設備が整備されている
- ②作業療法に必要な施設・設備が整備されている
- ③言語聴覚療法に必要な施設・設備が整備されている
- ④上記以外のリハビリテーションに関連した施設・設備が整備されている

Rh. 2.2.3 患者の自立に配慮した入院環境が整備されている

- ①生活機能の自立を目指した施設・設備が整備されている
- ②自助具や介助用品等の備品が整備されている
- ③機器の定期的な保守・点検を行っている

Rh. 3 回復期リハビリテーション機能の発揮

Rh. 3.1 回復期リハビリテーション病棟の運営に関する会議等が適切に機能している

- Rh. 3.1.1 運営に関する会議等を定期的に行い、適切な運営に努めている
- ①会議等の規程を整備し、病院組織における位置付けを明確にしている
 - ②会議等を定期的に行っている
 - ③回復期リハビリテーション病棟の業務目標と活動実績などを検討・評価している

Rh. 3.2 リハビリテーションに関するカンファレンスを適切に行っている

- Rh. 3.2.1 リハビリテーションに関する多職種によるカンファレンスを定期的に行っている
- ①回復期リハビリテーションに携わる多職種が参加している
 - ②多角的な観点から総合的な評価・検討を行っている
 - ③検討結果を職員に周知するよう努めている

Rh. 3.3 患者の病状に応じて各診療科が連携して対応している

- Rh. 3.3.1 原因疾患や合併症に応じて、専門診療科へのコンサルテーションを行っている
- ①必要に応じて病院内外の専門の医師と連携することができる
- Rh. 3.3.2 原因疾患の再発・悪化の防止や合併症の予防・治療のために必要な検査を行い、評価している
- ①必要な臨床検査を行っている
 - ②必要な画像診断を行っている

Rh. 3.4 リハビリテーションに関する記録が適切に整備されている

Rh. 3.4.1 リハビリテーションに関する記録を一元化し、多職種で情報を共有している

- ①訓練記録などは多職種で共有・活用できるように記載されている
- ②訓練の内容や進捗状況などが常時診療録などで確認できるよう情報を一元化している
- ③退院患者の訓練記録等も診療録と一元的に中央管理している

Rh. 3.4.2 各職種が退院時サマリーを適切に作成している

- ①リハビリテーション担当医は受け持ち患者の退院時サマリーを作成している
- ②理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などはそれぞれの立場から受け持ち患者の退院時サマリーを作成している
- ③看護サマリーはリハビリテーションの内容を含んで作成している
- ④上記以外の専門職も必要に応じて退院時サマリーを作成している

Rh. 4 回復期リハビリテーションの質改善と安全確保に向けた取り組み

Rh. 4.1 回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている

Rh. 4.1.1 回復期リハビリテーション病棟に関わる職員への教育・研修を適切に行っている

- ①新入職員向けの教育プログラムがあり、専門性を高める具体的な教育・研修を行っている
- ②リハビリテーションの技術に関する教育・研修を経年的・計画的に行っている
- ③当該病棟に特有な安全管理・感染管理に関する教育・研修を行っている

Rh. 4.1.2 回復期リハビリテーションに関する研究活動に取り組んでいる

- ①各専門職が関連する学会等で研究発表等を行っている
- ②院内で研究発表等を行っている
- ③各専門職が関連する学会等に参加し、内容を院内に伝達している

Rh. 4.1.3 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性を高める仕組みがある

- ①回復期リハビリテーションに関わる医師の専門性を高める仕組みがある
- ②理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などの専門性を高める仕組みがある
- ③回復期リハビリテーションに関わる看護師の専門性を高める仕組みがある
- ④上記以外の職員の専門性を高める仕組みがある

Rh. 4.2 回復期リハビリテーションの質改善に取り組んでいる

Rh. 4.2.1 回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを適切に収集している

- ①データ収集・集計の仕組みがある
- ②集めた情報を管理する担当者を定めている
- ③収集したデータを分析・評価している

Rh. 4.2.2 回復期リハビリテーション病棟に関する業務実績や治療成績などを定期的に把握している

- ①定期的に業務実績を把握し、職員に周知している
- ②経年的な治療成績などを把握し、職員に周知している

Rh. 4.2.3 集計した業務実績や治療成績をもとに組織的な評価・見直しを行っている

- ①業務実績や治療成績などの集計結果を他施設と比較するなど、分析を行っている
- ②分析結果を質の向上や部門の技術水準を高めるために活用している

Rh. 4.3 回復期リハビリテーションにおける医療安全を組織的に推進している

Rh. 4.3.1 患者の急変時に適切に対応できる仕組みが整備されている

- ①リハビリテーション部門の安全管理担当者を定めている
- ②訓練時に発生が予想される急変について把握されている
- ③訓練時の急変に対応するための手順がある
- ④訓練や評価時の患者の安全性に配慮している
- ⑤手順の周知に向けた研修・訓練を行っている

Rh. 4.3.2 転倒・転落防止など医療安全に向けた取り組みを組織的に行っている

- ①病棟生活上の取り組みや訓練時に関するリスク評価を行っている
- ②リスク評価に基づいた具体的な対応策を講じている
- ③対策の有効性についてチームによる評価を行っている

Rh. 5 回復期リハビリテーション対象患者への適切な対応（ケアプロセス）

Rh. 5.1 患者の受け入れに必要な情報を入手し、組織的に検討している

Rh. 5.1.1 受け入れ患者の初期評価に必要な情報を収集している

- ①患者の初期評価を行うために必要な情報を入手している
- ②情報が十分でない場合は紹介元へ再確認し、情報を入手している
- ③必要に応じて患者・家族と入院決定前に面接し意向と希望を確認している

Rh. 5.1.2 患者を受け入れるための協議・判定を組織的に行っている

- ①検討は原則として全ての入院患者を対象に行っている
- ②医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、MSW等が患者を受け入れるための判定に関与している
- ③患者の病状・病歴等、および検討過程や決定事項などの要点を記載し、職員間で共有している
- ④迅速な対応を行っている

Rh. 5.2 リハビリテーションに関する患者・家族の意見・要望を尊重して目標設定し、予後予測を説明している

Rh. 5.2.1 傷病・障害の診断に基づいて、入院目的や回復の見込みなどを説明している

- ①回復期リハビリテーション病棟の利用基準、入院目的について説明している
- ②心身機能・活動・参加などの状態を評価し、障害の概要と回復の見込みを説明している
- ③診察や検査結果に基づき傷病を把握し、原因疾患や併存症、合併症のリスクや必要な管理について説明している

Rh. 5.2.2 患者本人や家族などの意見・要望を確認し、リハビリテーションの方針と目標を設定している

- ①患者の希望や家族の意向を把握して治療方針と目標を設定し、理解・同意を得ている
- ②退院時の目標（長期目標）と、それに向けた段階的な目標（短期目標）を設定している
- ③目標では、具体的な活動能力と到達時期の予測を明確にしている

Rh. 5.3 リハビリテーションプログラムが適切に計画されている

Rh. 5.3.1 回復期リハビリテーションのための初期評価を適切に行っている

- ①身体機能障害に関する評価を行っている
- ②高次脳機能障害に関する評価を行っている
- ③ADLに関する評価を行っている
- ④訓練により発生しうるリスクを評価している
- ⑤復職、家事などの退院後の社会生活に配慮している

Rh. 5.3.2 評価に基づきリハビリテーションの実施計画を多職種で検討し、定期的に見直している

- ①各職種ごとの評価結果をチームとして共有している
- ②多職種による包括的なリハビリテーション計画を作成し、定期的に見直している

Rh. 5.3.3 退院計画は患者の障害特性や退院後の生活を考慮した内容となっている

- ①患者の傷病悪化や合併症の予防のための方策や注意点を明確にしている
- ②退院後の生活を考慮した個別的な計画を作成している

Rh. 5.4 リハビリテーションに関わる医師の役割が明確である

Rh. 5.4.1 リハビリテーションに関わる医師による診療を適切に行っている

- ①障害を医学的に評価し、適切なリハビリテーション処方を行っている
- ②原因疾患や併存症、合併症の悪化・再発、二次障害の発生などの防止に配慮した診療計画を作成している
- ③原因疾患や併存症、合併症に関する医学的管理を行っている

Rh. 5.4.2 義肢装具を適切に処方し、適合判定を行っている

- ①ブレースクリニックを定期的開催している
- ②リハビリテーション医が中心となり、療法士、義肢装具士など多職種の参加のもとで検討している
- ③使用・作製した装具の適合判定を行っている

Rh. 5.4.3 多職種によるチーム内で医師が適切なリーダーシップを発揮している

- ①必要に応じて療法士等が同行しながら回診等を行っている
- ②合同カンファレンスを医師が取り纏め、方針を明示している
- ③リハビリテーションの実施状況を把握し、看護師・療法士等に適切な指示を行っている

Rh. 5.5 リハビリテーションのための看護・介護を適切に実践している

Rh. 5.5.1 リハビリテーションのための看護・介護計画を作成している

- ①日常生活活動の実行状況を定期的に評価するとともに、他職種からの情報を参考にしながら計画している
- ②患者の能力を活用し、心身機能の回復を促進するための介助方法や環境整備を計画している
- ③廃用症候群を予防し、患者の活動度を向上させるための生活支援を計画している

Rh. 5.5.2 回復期リハビリテーション病棟における安全・安心な看護・介護を実践している

- ①転倒・転落、褥瘡、無断離院などのリスクの程度を定期的に評価し、他職種と情報共有している
- ②患者の症状や行動を観察し、安全な生活活動となるよう調整・援助している
- ③患者ごとのリスクに関する情報や経時的な変化・異常を職員間で迅速に伝達し対応している

Rh. 5.5.3 心理状態や高次脳機能障害に適切に対応し、患者のセルフケアを支援している

- ①心理状態・高次脳機能障害を標準化された検査を用いて評価している
- ②心理状態や高次脳機能障害のケアを行っている
- ③必要な心理的支援を多職種により実施している
- ④必要に応じて医師の診断と治療がなされている

Rh. 5.6 患者に必要なリハビリテーションプログラムを実施している

Rh. 5.6.1 回復期における理学療法を適切に実施している

- ①理学療法の専門性に基づき初期評価・再評価などを適切に行っている
- ②評価に基づいた理学療法を系統的に行っている
- ③訓練効果を客観的に評価している
- ④評価・プログラムの実施内容などを適切に記録している

Rh. 5.6.2 回復期における作業療法を適切に実施している

- ①作業療法の専門性に基づき初期評価・再評価などを適切に行っている
- ②評価に基づいた作業療法を系統的に行っている
- ③訓練効果を客観的に評価している
- ④評価・プログラムの実施内容などを適切に記録している

Rh. 5.6.3 回復期における言語聴覚療法を適切に実施している

- ①言語聴覚療法の専門性に基づき初期評価・再評価などを適切に行っている
- ②評価に基づいた言語聴覚療法を系統的に行っている
- ③訓練効果を客観的に評価している
- ④評価・プログラムの実施内容を適切に記録している

Rh. 5.6.4 回復期におけるその他のリハビリテーションを適切に実施している

- ①病棟で自主訓練を行っている
- ②病棟で集団訓練を行っている
- ③病棟でレクリエーション等を行っている
- ④その他、病棟で積極的な活動を行っている

Rh. 5.7 日常生活の自立を支援するリハビリテーション・ケアをチームで実践している

Rh. 5.7.1 栄養管理や食事・口腔ケアの自立に向けたリハビリテーション・ケアをチームで実践している

- ①摂食・嚥下機能や栄養評価を実施しチームで共有している
- ②能力などに応じた食形態の嚥下食が提供されている
- ③病棟の食事場面で専門職が関与し摂食・嚥下訓練を行っている
- ④食事は椅子などに座って行い、能力に応じて自助具や特殊食器などを使用している
- ⑤毎食後、口腔ケアを実施・援助している

Rh. 5.7.2 排泄の自立に向けたリハビリテーション・ケアをチームで実践している

- ①排尿に関する医学的評価を行っている
- ②排便に関する医学的評価を行っている
- ③排泄パターン（尿意・便意、量・頻度等）のチェックを行っている
- ④自宅での排泄動作の自立に向けて必要な援助と訓練を行っている

Rh. 5.7.3 更衣・整容・入浴の自立に向けたリハビリテーション・ケアをチームで実践している

- ①更衣動作の自立に向けた訓練を実施し、日中着への着替えを行っている
- ②整容動作の自立に向けて必要な援助と訓練を行っている
- ③入浴動作の自立に向けて必要な援助と訓練を行っている

Rh. 5.7.4 移動・移乗の自立に向けたリハビリテーション・ケアをチームで実践している

- ①病棟内移動は、患者の能力が活かされる方法で援助している
- ②車椅子の移乗援助の手順を職員間で統一している
- ③各種の移動補助具や車椅子が整備され、患者の能力に応じて使用している

Rh. 5.7.5 社会性の拡大に向けたリハビリテーション・ケアをチームで実践している

- ①コミュニケーション障害の原因を評価しチームで共有している
- ②生活場面で言語的・非言語的コミュニケーションを援助し対応している
- ③患者に必要なコミュニケーションの補助用具を活用している

Rh. 5.8 退院後の生活に配慮したリハビリテーションや自立支援に向けて取り組んでいる

Rh. 5.8.1 退院前訪問を行い、家屋評価に基づく指導・支援を行っている

- ①対象患者の家屋評価を適切に行い、ゴール設定や家屋改修や生活環境の調整策等を検討している
- ②家屋評価の実施や改造等の助言を行うための用具を整備し、活用している
- ③評価結果や指導の内容は適切な書式に記録している

Rh. 5.8.2 退院後の生活やリハビリテーションに関する指導・支援を多職種で連携して行っている

- ①指導内容は多職種で総合的に検討している
- ②患者・家族が実践できるよう各職種が指導・援助している
- ③各職種が行った指導内容が記録されており共有することができる

Rh. 5.8.3 退院後の継続的なリハビリテーションや自立支援に向けて地域の社会資源と連携している

- ①退院後の社会資源の活用に向けた手続きを早期より検討し指導している
- ②継続したリハビリテーションが実施できるよう情報提供している
- ③退院後も継続的なリハビリテーションが実施できるよう事業所等と連携している
- ④担当ケアマネージャーと退院後の検討を行っている
- ⑤退院患者の療養継続を支援する施設や機関を紹介している